

令和4年度 官民研究開発投資拡大プログラム（PRISM）  
審査・評価委員会 新 SBIR 制度加速事業分科会概要（第2回）

- 日 時：令和4年5月27日（金） 17:00～18:00
- 場 所：内閣府中央合同庁舎第8号館6階及びオンライン
- 議 事：
  - （1） 令和3年度新 SBIR 制度加速事業の評価結果について
  - （2） 令和4年度官民研究開発投資拡大プログラム（PRISM）新 SBIR 制度加速事業実施方針案について
  - （3） その他

■ PRISM 審査・評価委員会 委員（敬称略）

＜新 SBIR 制度加速事業分科会＞

- ◎上山 隆大 （総合科学技術・イノベーション会議 常勤議員）
- 東出 浩教 （早稲田大学ビジネススクール（商学研究科）教授）
- 琴坂 将広 （慶應義塾大学総合政策学部准教授）
- 永田 暁彦 （リアルテックファンド 代表、株式会社ユーグレナ  
取締役代表執行役員 CEO）

※◎は座長、全員出席

【概要】

令和3年度新 SBIR 制度加速事業の評価結果、令和4年度新 SBIR 制度加速事業の実施方針案について事務局から説明。会議終了後、事務局が実施方針案を各省と調整のうえ、座長一任で決定。委員の主なコメントは以下のとおり。

- 評価は減額することが決して目的ではなく、必要なところに流すべきと思う。
- 科学技術の重要性に鑑み、近年、科学技術関係の投資が急速に上がっていることに対し、ファンディングエージェンシー等の現場の体制確保が追いついていないのではないかと。科学技術の観点から、CSTIでも議論し、検討が必要。
- 国が支援する際にも、民間のファンドが投資するような、支援対象と同じ船に乗っている状態を作ること意識するのが重要。
- 支援する側、される側が、互いに良い影響を与えて成長することが重要。
- マーケットからの発想を組合わせていくことができると、そこに向けてバックキャストしながら進めていくことができる。
- 小さく成功率も低いかもしれないが、最初からグローバルを目指す果敢なチャレンジをするスタートアップに投資する枠組みを作っていないと先に進まないのではないかと。

以上